

数珠の意味と作法

数珠は誦珠とか念珠なども書き、読んで字の通り念ずる珠であり、お題目を唱えたりお経をあげるときに、精神を集中し、仏さまの世界を念じ一心にお題目を唱える者に、より多くの功德を与える法具です。かけ方は、平常は二つの環にして左手首にかけておき、合掌中はやはり二環にして左手の親指と人差指の間にかけます。なお読経中にジャラ／＼と音を立てるのはやめましょう。これは山伏修験の風であり、導師が他の式衆への合図のために始めたことですから。

「ひげ題目」は何をあらわすか

「南無妙法蓮華経」のお題目の「法」を除いて他の六字は長く引き延して書かれております。

これは日蓮上人が創意した筆法ですが、字の先端がひげのように伸びていることから「ひげ題目」と稱されています。これは、光明を発射している様子を象徴したのもともいわれています。つまり、中央の題目は智慧をあらわし、ひげは智慧の光明線を表現しているといえます。曼荼羅でひげが諸仏諸尊に長く引き伸ばされているのは、仏智の光に照らされて、諸仏諸尊をはじめ生きとし生けるものが成仏を完成した相を映し出しているともいえます。

お題目の意義と功德

お題目とは、釈尊滅後の現代（末法）に生きる私たちを救うために、釈尊が妙法蓮華経の中に残し置いてくれた宝の「珠」であり、「良薬」であります。

日蓮聖人は法華経を色読して「本仏釈尊は末法の時代の人びとのために、この一念三千の理法を、私たちを救い成仏させようと願って、南無妙法蓮華経という七字の中につみこんだ宝珠とし、これを唱えるものが、自然にわが身にこれを頂戴して仏と一体となれるようにして下さい」と、私たちに告示になりました。これが日蓮宗のお題目です。

お題目には、み仏が遠い昔、永遠に人々の幸福を願った心がこめられています。

法華寺の天然記念物

お寺には法華寺の輝やかなしい歴史を裏付けるにふさわしい、盛岡市指定天然記念物が二本もあります。

○法華寺のヒイラギ 樹齢約三百年

(昭和四十七年十一月二十二日指定)

○法華寺のモリオカシダレ 樹齢約七十年

(昭和五十五年四月一日指定)

ヒイラギは庫裡の西北端、庭園の西側にあり、市教育委員会では指定の理由として次のように記している。

盛岡市は冬の寒さが厳しく普通の状態では越冬困難である。本樹は恐らく幼齢時代に、他樹の樹下に植えられ寒さから保護され、上木が老木となり枯死したため、露出した時は耐寒力がついて生育を続け得たものと思われる。本樹は植栽の北限地として重要である。

モリオカシダレは本堂の前にあり、市教育委員会では、龍谷寺のそれは老化が著しく、いつ枯死するかわからない状態なので、法華寺のモリオカシダレを後継樹として指定した。なお、この樹は龍谷寺のものに比較して、花が大きく、おしべに微毛がある点で異なっており、新変種ともなり得るので将来検討を要するとしている。

ウチワ太鼓と日蓮宗

ウチワ太鼓は日蓮門下独特のものです。伝説によりますと、念仏宗の信仰に熱中していた僧侶が日蓮聖人のお説教を聞くうちに念仏の救いに疑問を持ち、とうとう改宗して日蓮聖人のお弟子になりました。

ところが、それまで念仏を唱えるときには、いつも鉦を叩いて調子をとおり、リズムにのって唱えていたのに、お題目を唱えるときには何もなくどうも寂しい、具合が悪い。

そこで「お題目を一層唱えこむために何かよい方法はないものか」と考えあぐねた末、太鼓を叩いてお題目をあげて見たところ、大変具合がよいので、日蓮聖人にお許しをいただき、この僧はいつも太鼓を叩いてお題目をあげるようになったといわれます。

その後、時代を経るにしたがい、太鼓もいろいろ工夫が加えられ、携帯用に今日のような独特のウチワ太鼓が作られるようになったのです。